

MSM に対する有効な HIV 検査提供とハイリスク層への介入方法の開発に関する研究

研究代表者：金子典代（名古屋市立大学大学院看護学研究科 准教授）

研究要旨

研究 1. 自己検査キットを活用したハイリスク MSM 対象の検査機会の拡大

平成 29 年度末（2 月 26 日）よりコミュニティセンターakta での検査キットの配布を開始し、akta での配布を令和元年 12 月末まで実施し、沖縄コミュニティセンターmabui でも令和 2 年 1 月に研究班では 2 回目の沖縄での配布を行った。本研究期間中に累計 2,087 キットの配布を行った（ハッテン場では 49 キット、沖縄では令和 1-2 年度 2 回で 55 キットを配布）。配布キットのうち、84.1%の検体が ACC に郵送されている。いずれの配布時にも相談支援の専門家が常駐しており、キット受け取り者の 23%に相談利用があった。外国籍者の利用が全体のうち 10%であった。キット受け取り者の属性は、平均年齢は 32.7 歳、全体の 24.8%がこれまでの検査経験がないものであった。ACC では 1,756 件の検体を回収し、検体回収率は 84.1%であった。回収し結果を通知した検体サンプルについて、99%の結果が利用者により確認されていた。全体では、スクリーニング検査で 45 名陽性が判明した。複数回利用者は N=1 としてカウントしたところ陽性割合は 3.83%であった。ハッテン場配布由来の検体の陽性割合は、コミュニティセンター配布由来検体より高かった。なおスクリーニング陽性者のうち医療機関への受診を確認できたのは 21 件（46.7%）であった。

研究 2. 地方における新たな検査機会の開発 - 医療者からの検査推奨による MSM の検査受検環境改善 -

沖縄県で HIV 検査提供が可能な民間の医療機関を開拓し、広報として、同病院のウェブサイトの HIV 検査に関する案内文を作成した。また沖縄県のホームページに「HIV 検査を実施している医療機関」として保健所と併記して掲載された。また、NGO による広報を行うことで、利用者が増加し、急性感染期の陽性者の受検・早期受診にもつながった。

研究 3. 地方における新たな検査機会の開発 - クリニック・診療所における検査機会の拡大 -

中四国地域の MSM への検査勧奨のため、MSM 向けクリニックでの検査提供を行政とクリニックと NGO が協働して実施した。2019 年 8 月 19 日～9 月 30 日において、MSM 向けの HIV・梅毒検査を目的とする「岡山県もんげ～性病検査」と「せとうち性病クリニック検査」を同時実施した。前者の実施クリニックは、岡山市 3 施設、倉敷市 3 施設であり、受検者総数は 31 人で、HIV 陽性者 1 人、梅毒陽性者 3 人を新規に診断した。後者では、福山市 2 施設、松山地区 2 施設、高松市 1 施設が参加し、受検者総数は 26 人で、HIV 陽性者 1 人、梅毒陽性 2 人を新規に診断した。地方都市における民間医療機関との協働による検査拡大モデルを示した。

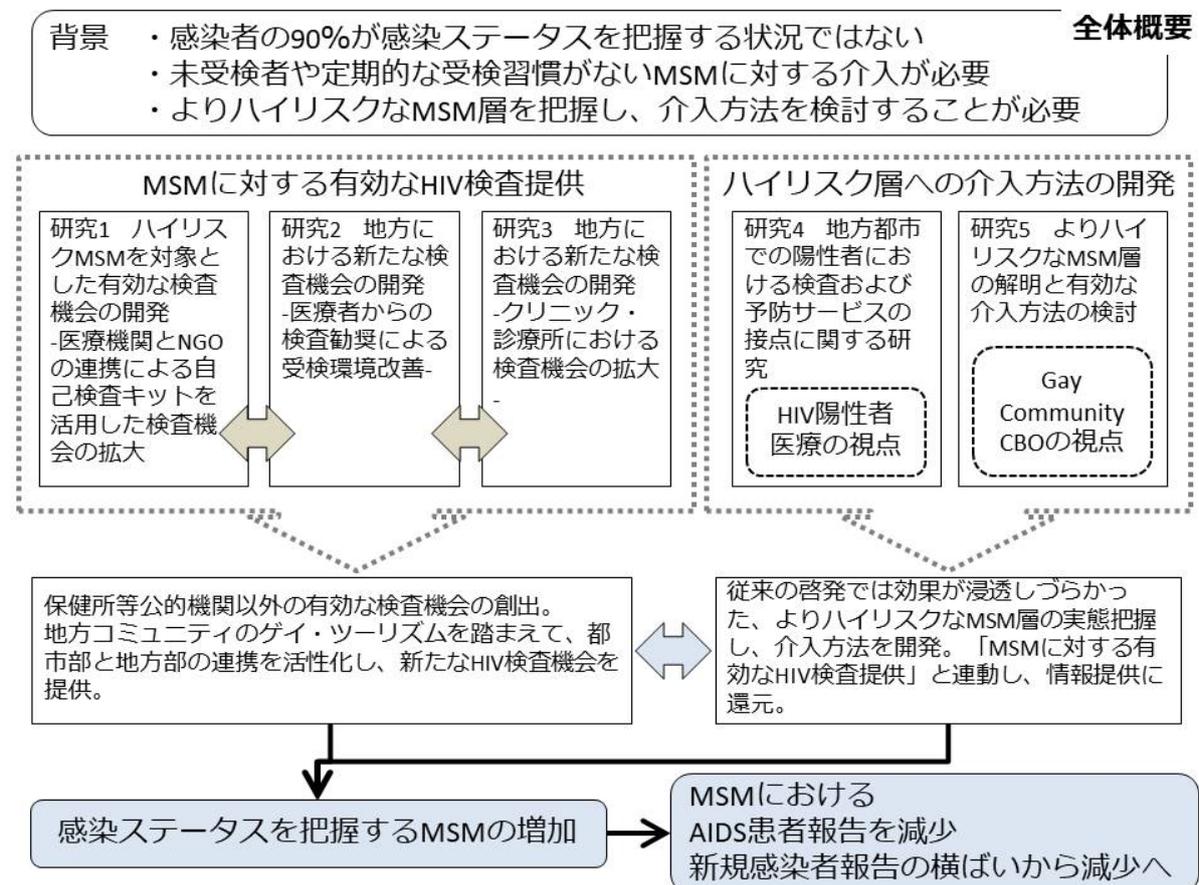
研究 4. 地方都市での陽性者の検査・予防サービスの接点に関する調査

地方都市拠点病院 2 病院で質問紙を配布し、61 件の過去 5 年以内に陽性が判明した陽性者よりデータを収集した。陽性判明前に HIV 検査を受けたものは 32%にとどまること、HIV 急性期症状が出た 92%が医療機関受診をし、そのうち HIV 検査勧奨を受けた割合は 27%であった。性感染症罹患時の治療を受けた医療機関で HIV 検査を勧奨されたものの割合が 40%に満たなかった。また陽性判明前の商業施設利用については、ゲイバーよりハッテン場の方が利用割合が高かった。

研究5. よりハイリスクな MSM 層の解明と有効な介入方法の検討

全国の NGO と協働し、よりハイリスクな層を明確化するために、インターネット利用に関する項目、TasP、PrEP に関する知識について尋ねる質問項目も加え、調査を実施した。東京、愛知、大阪で実施したデータ（商業施設調査 N=981、インターネット調査 N=328）についてコミュニティセンター認知別解析を行った。コミュニティセンター認知割合は商業施設調査で 45%、インターネット調査で 63%であった。HIV 抗体検査受検経験ではコミュニティセンター認知群が 82%（インターネット調査）-78%（商業施設調査）、非認知群では 67%（インターネット調査）-58%（商業施設調査）であり、有意差がみられた。性感染症既往歴でもコミュニティセンター認知群が 55%（インターネット調査）-47%（商業施設調査）、非認知群では 33%（インターネット調査）-35%（商業施設調査）であり、有意差がみられた。インターネット利用に関する項目、Treatment as Prevention や PrEP の知識項目を追加し、中四国地域および横浜、仙台、名古屋地域で実施した行動データの解析、大阪、沖縄地域ではインターネット調査を実施した。

研究分担者
 岩橋 恒太
 （特定非営利活動法人 akta 理事長）
 健山 正男
 （琉球大学大学院医学研究科 准教授）
 和田 秀穂
 （川崎医科大学血液内科学 教授）
 塩野 徳史
 （大阪青山大学健康科学部看護学科 講師）



A. 研究目的

本研究の目的は次の3点である。

1. 医療機関と NPO akta が連携して開発した自己検体採取キットの配布と検査、結果通知がパッケージ化されたシステムを活用し、ハイリスク MSM の検査推進を図る。また受検者の HIV 感染ステータスと行動データをリンクさせた血清行動疫学調査を実施する。
2. 地方都市で、公的機関以外の医療機関等を活用した新たな HIV 検査の提供体制を整備し、対面型の接触を避ける MSM への検査促進を行う。
3. 当事者 NGO が協働し、従来の介入が届きにくかったハイリスクな MSM のインターネットサービスの利用状況を含む実態把握と有効な介入を試行する。

B. 研究方法

研究 1. 自己検査キットを活用したハイリスク MSM 対象の検査機会の拡大

研究分担者 岩橋恒太

医療機関(国立国際医療研究センター:ACC)と NPO が連携した検査「HIVcheck.jp」を活用して実施する。本検査の流れは下記のとおりである。①コミュニティセンターなど MSM コミュニティ内のベニューにて NGO スタッフが対面で検査の流れを説明しキットを配布、自記式質問紙調査への回答を依頼する。②同意した受検者は後日自己穿刺血したろ紙を ACC に郵送する。③ACC でのスクリーニング検査の結果は、受検者固有の ID とパスワードを専用 WEB サイトに入力することで結果ページにアクセスを可能とする。④スクリーニング検査で要確認となった場合は、指定の医療機関の予約と受診につながり、さらに確定検査で陽性の場合には HIV 専門医療機関を紹介する。⑤専用 WEB サイトには検査・相談・医療に関する情報サイト HIV マップ等をリンクし、支援環境を周知する。血清行動疫学分析として、受検者の検査結果と自記式質問紙調査のデータをリンクして分析す

る。陽性者の背景分析、有病割合と推定罹患率を算出する。

検査キットはコミュニティセンターakta、東京都内の MSM 向け商業施設(ハッテン場)で配布する。沖縄 mabui, 都内のゲイ向けクラブイベントでも配布する。

研究 2. 地方における新たな検査機会の開発 - 医療者からの検査推奨による MSM の検査受検環境改善 -

研究分担者 健山正男

沖縄県で HIV 検査が早期かつ適切に提供できる体制を医療、行政、NGO の連携により整備する。令和元年度は、HIV 罹患率の高い MSM が利用しやすい保健所以外の検査機関(病院)を確保する。施設要件としては、①受付から診療まで MSM に対してフレンドリーであること、②平日以外も HIV 検査が実施できること、とした。①の要件達成のため、同院の職員全体研修会を2回実施し、また、運営を円滑にするため、感染症コーディネータを介在させ同院とエイズ中核拠点病院とで調整を行った。また那覇市行政による検査を mabui で実施、MSM が利用しやすい検査機関を開拓する。

研究 3. 地方における新たな検査機会の開発 - クリニック・診療所における検査機会の拡大 -

研究分担者 和田秀穂

岡山県での医療機関を活用した MSM 向け検査モデルを中四国ブロックにて普及させ、受検者動向調査、コミュニティベース調査により評価を行う。

調査地域:岡山県、愛媛県、広島県、その他中四国ブロック

岡山県の先行事例をもとに、近隣県にも拡大展開し、中四国地域における医療機関等を活用した新たな HIV 検査機会を整備する。受検者への質問紙調査、行政への検査機関別 HIV/AIDS 報告件数、コミュニティでの横断調査により効果評価を行う。令和元年度は香川県でのクリ

ニックの開拓を行う。

研究 4. 地方都市での陽性者の検査・予防サービスの接点に関する調査

研究分担者 金子典代

横断型自記式質問紙調査により、拠点病院等に通院する HIV 陽性者を対象に、感染判明前の検査、医療機関の利用、予防啓発との接点を把握し、地方都市での早期検査勧奨の考案、ハイリスク MSM の実態把握と有効な介入の考案に活用する。地方都市の 2 つの拠点病院から質問紙を回収し、感染判明前の性感染症罹患、急性感染期の受診時の HIV 検査を勧められたか、商業施設の利用状況を分析する。

研究 5. よりハイリスクな MSM 層の解明と有効な介入方法の検討

研究分担者 塩野徳史

全国の 7 NGO と連携し、横断型自記式質問紙調査を実施する。ミーティングにより調査手法の検討を行い、よりハイリスクな層を意識した質問紙調査を実施する。NGO が持つコミュニティ内のネットワークにより集めたハイリスク MSM に対し、性行動、予防行動、HIV/AIDS に関する意識を分析し、有効な介入を考案する。

調査地域：東北、首都圏、横浜、東海、大阪、中四国、沖縄

(倫理面への配慮)

研究計画については、研究者が所属または外部委託する研究機関において倫理審査を受けて実施する。本研究は血液検査が含まれており、協力依頼時には訓練された専門のスタッフが書面および口頭によって説明し、研究主体、研究目的、調査参加の任意性、予想されるメリット、デメリット、厳密な個人情報の保護、不参加の際に不利益を受けないこと、途中で中止の自由について十分に理解を得たのちに同意を得たうえで実施する。

C. 研究結果

研究 1. 自己検査キットを活用したハイリスク MSM 対象の検査機会の拡大

平成 29 年度末 (2 月 26 日) よりコミュニティセンターakta での検査キットの配布を開始した。令和元年度は東京都内のクラブイベント (台風にてイベントがキャンセル)、また沖縄コミュニティセンターmabui でも 2 回目の配布を行った。2020 年 1 月 12 日時点で累計 2,087 キットの配布を行った (ハッテン場では 49 キット、沖縄では令和 1-2 年度 2 回で 55 キットを配布)。配布キットのうち、84.1%の検体が ACC に郵送されている。いずれの配布時にも相談支援の専門家が常駐しており、キット受け取り者の 23%に相談利用があった。外国籍者の利用が全体のうち 10%であった。本研究では、行動調査とスクリーニング検査をリンクさせる血清疫学行動調査を実施しているが、全体の 97%からリンクの同意を得ている。キット受け取り者の属性は、平均年齢は 32.7 歳、全体の 24.8%がこれまでの検査経験がないものであった。2020 年 1 月中間集計ではあるが、ACC での 1,756 件の回収済検体のうち、スクリーニング検査で 45 名陽性が判明している。ハッテン場配布由来の検体の陽性割合は、コミュニティセンター配布由来検体より高かった。

研究 2. 地方における新たな検査機会の開発 - 医療者からの検査推奨による MSM の検査受検環境改善 -

沖縄県で HIV 検査提供が可能な民間の医療機関を開拓し、広報として、同病院のウェブサイト上の HIV 検査に関する案内文を作成した。また沖縄県のホームページに「HIV 検査を実施している医療機関」として保健所と併記して掲載された：<https://www.pref.okinawa.jp>

[/site/hoken/chiikihoken/kekkaku/hivaid.html](https://www.pref.okinawa.jp/site/hoken/chiikihoken/kekkaku/hivaid.html))。MSM 向けの広報強化のため、mabui が発行するコミュニティペーパーにも同病院事

業を掲載、MSM向けのサイトに広告を掲載した。同病院の HIV 検査外来実施後、一ヶ月後には HIV 陽性者を診断することができた。

2019年5月に行政による MSM 向け HIV と梅毒検査をコミュニティセンター mabui において実施した。上限枠を超える利用者が来場した。広報は NGO が担当した。

研究 3. 地方における新たな検査機会の開発 - クリニック・診療所における検査機会の拡大 -

中四国地域の MSM への検査勧奨のため、MSM 向けクリニックでの検査提供を行政とクリニックと NGO が協働して実施した。2019年8月19日～9月30日において、MSM 向けの HIV・梅毒検査を目的とする「岡山県もんげ～性病検査」と「せとうち性病クリニック検査」を同時実施した。前者の実施クリニックは、岡山市3施設、倉敷市3施設であり、受検者総数は31人で、HIV 陽性者1人、梅毒陽性者3人を新規に診断した。後者では、福山市2施設、松山地区2施設、高松市1施設が参加し、受検者総数は26人で、HIV 陽性者1人、梅毒陽性2人を新規に診断した。

研究 4. 地方都市での陽性者の検査・予防サービスの接点に関する調査

5年以内に陽性が判明した陽性者61名よりデータを収集した。MSM に限定して分析を行った結果、陽性判明前に HIV 検査を受けたものは32%にとどまること、HIV 急性期症状が出た92%が医療機関受診をし、そのうち HIV 検査勧奨を受けた割合は27%であった。性感染症罹患時の治療を受けた医療機関で HIV 検査を勧奨されたものの割合が40%に満たなかった。また陽性判明前1年間の商業施設利用については、ゲイバーよりハッテン場の方が利用割合が高かった。

研究 5. よりハイリスクな MSM 層の解明と有効な介入方法の検討

全国の NGO と協働し、初年度には仙台、横浜、中国、四国、沖縄で、2年度目には東京、愛知、大阪で実施し、3年度目に統合し質問紙調査データのコミュニティセンター認知別解析を行った。コミュニティセンター認知割合は商業施設調査で45%、インターネット調査で63%であった。HIV 抗体検査受検経験ではコミュニティセンター認知群が82%（インターネット調査）-78%（商業施設調査）、非認知群では67%（インターネット調査）-58%（商業施設調査）であり、有意差がみられた。性感染症既往歴でもコミュニティセンター認知群が55%（インターネット調査）-47%（商業施設調査）、非認知群では33%（インターネット調査）-35%（商業施設調査）であり、有意差がみられた。

また成人前期（20歳代）MSM への面接調査研究を実施し、出会い系アプリやネットツール、リアルを駆使しての出会いや学校教育の授業内容が知識として重要であること、より受けやすい検査への期待も示された。

D. 考察

研究1は、akta 以外の場所でも配布を実施し、3年間でほぼ計画通りに実施を行った。最終的には陽性割合は3%を超えており、保健所による検査よりも陽性割合は高く感染リスクの高い層への検査モデルとしての可能性を示した。スクリーニング陽性者の確認検査へのつながりを向上させるべく、医療機関受診予約から受診への流れのビデオを作成、キット配布時の説明強化を行った。2019年8月から無料匿名での確認検査へとなぐべく東京都からもスクリーニング陽性者の検査の受け入れ先として協力を得た。しかし、中間時点ではあるが、陽性者の医療へのつながりの捕捉率は最終段階でも42%と低く、この点で課題を残した。

研究2については、医療と MSM コミュニティが連携し、開拓した民間医療機関での HIV 検査の広報を行い、急性感染期の患者の早期発見へとつながった。今後も保健所での検査、コミュ

ニティセンターでの検査、民間医療機関を活用した検査モデルを提示し、検査オプションを増やしつつ検査を拡大させることが引き続き必要である。

研究3は毎年新しくクリニックを開拓し、計画通り拡大展開を実施できた。「せとうち性病クリニック検査」での受検者アンケート調査では、29歳以下の若年層で初受検者の割合が71.4%と高かったのが特徴であり、「もんげ〜性病検査」の広報の認知度も高く、CBOとの協働が重要であることが改めて示された。

研究4では、過去5年に感染が判明した地方都市陽性者MSMの感染前のHIV検査機会や利用した商業施設についての把握が可能となった。急性感染期や性感染症罹患時に医療機関に受診しているにもかかわらず適切にHIV検査勧奨がなされていないことが示された。また感染判明前の利用していた商業施設として、ハッテン場の利用が高かったことが示され、検査アウトリーチの場としての重要性が示された。

研究5では、全国NGOと協働し、質問紙調査結果に基づき、検査未受検層、ハイリスク層を明確化することができた。コミュニティセンター認知群は感染リスクが最も高い層であり、検査経験の高さや啓発資材の浸透度より予防介入が届いていると考えられた。コミュニティセンター認知群は、性感染症既往歴は高いが、コンドーム使用および啓発資材の浸透度は約半数であるため、継続的な予防介入が必要である層と考えられる。一方で、コミュニティセンター非認知群において、先行研究に比べ感染の拡大が示唆されており、啓発資材の浸透度は低い。今後はコミュニティセンターより発信される情報を、コミュニティ全体にさらに広げるような手立てを考えていく必要がある。

達成度については、研究1の「HIVcheck.jp」は、akta以外での配布も実施してきており、今年度はゲイ向けクラブイベントでの配布も計画したがイベント当日に大型台風が来たためイベントがキャンセルとなり、特定日、特定場

所での単回の配布プログラムに伴う課題が示された。また外国籍MSMの利用も全体の10%を超えており、検査ニーズがあることが示された。研究2、3の地方都市での検査拡大については、研究者、NGO、行政の協働により検査、効果評価が予定通りに進行している。研究4では、地方都市における検査機会の少なさが示され、予防啓発や検査促進についての意見も回収しており、今後の地方都市での検査や啓発に役立つことが期待できる。研究5については、全国NGOによる研究チームが構成され解析が進行している。ハイリスクMSM層の定義づけ、またハイリスクMSM層へアクセスし情報提供を行う方法を検討していく。

研究成果の学術的・国際的・社会的意義について

わが国では未達成といわれている90-90-90の初めの段階到達のためには検査普及が必須である。コミュニティベースに展開する「HIVcheck.jp」での陽性割合は従来の保健所の陽性割合より8倍高く、受け取り者の20%以上は生涯初の検査機会となっていること、ハッテン場由来の検体の陽性割合が高いことから、ハイリスクなMSMへの検査としては有用であることが示された。地方都市では、NGO、行政、医療の連携による民間クリニックを活用したHIV検査の事業化に成功した岡山県モデル事例を中四国地域にも拡大させ、沖縄での民間医療機関の開拓のモデルとなった。従来の商業施設ベース型の介入が届きにくかったハイリスクMSMの実態把握や介入開発は日本では未実施であり社会的意義は高い。コミュニティセンター接触・認知群の方が非認知群より検査行動も高いその点では効果が示された。コミュニティセンター非認知群への情報提供、介入が重要となる。本研究の成果により、新たな検査の手法の事業化やMSM向けの検査機会拡大、全国での地方都市の検査体制の整備、介入の展開につないでいくことが期待される。

E. 結論

研究は概ね計画通りに進行した。UNAIDS の提唱する 90-90-90 の初めの段階である「90%の陽性者が自身の感染ステータスを把握する状況」の到達には、MSM への更なる検査拡充が必須である。今回の「HIVcheck.jp」、地方都市での検査促進についても、いずれも NGO と行政と医療との協働による取り組みが必須となる。また従来の商業施設ベースの予防介入が届きにくかったハイリスク MSM にも情報を届ける仕組みを作り、よりハイリスクな層へのアウトリーチへとつなげる必要がある。

F. 研究発表

研究代表者

金子典代

1. 論文発表

- 1) ○金子典代, 塩野徳史, 本間隆之, 岩橋恒太, 健山正男, 市川誠一: 地方都市在住の MSM (Men who have sex with men) における調査時点までと過去 1 年の HIV 検査経験と関連要因. 日本エイズ学会誌, 2019, 21(1), 34-44.
- 2) ○塩野徳史, 市川誠一, 金子典代, 佐々木由理: 都市部保健所における HIV 抗体検査受検者の特性. 厚生 の 指 標, 2018, 65(5) 35-42.
- 3) Kaori Nagai, Akiko M. Saito, Toshiki I. Saito, Noriyo Kaneko: Reporting quality of randomized controlled trials in patients with HIV on antiretroviral therapy: a systematic review. *Trials*, Dec 28;18(1):625. DOI 10.1186/s13063-017-2360-2
- 4) Kang KA, Kim SJ, Kaneko N: Factors influencing behavioral intention to undergo Papanicolaou testing in early adulthood: Comparison of Japanese and Korean women. *Nurs Health Sci.* 2017

Dec;19(4):475-484.

- 5) 寺尾亮平, 金子典代, 樋口倫代: 養護教諭における中学生・高校生からのネット上のいじめの相談を受けた経験とその関連要因. 学校保健研究, 2017, 9 (4) : 288-294.
- 6) Kang, Kyung-Ah & Kim, Shing-Jeong & Noriyo, Kaneko & Cho, Haeryun & Lim, Young-Sook. (2017). A Prediction of Behavioral Intention on Pap Screening Test in College Women: A Path Model. *Journal of Korean Public Health Nursing.* 31. 135-148. 10. 5932 / JKPHN. 2017.31.1.135.

2. 学会発表 (国内)

- 1) ○金子典代: MSM における HIV 検査受検、定期検査受検のハードルを下げるための試み. 日本エイズ学会シンポジウム、第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.
- 2) ○金子典代: MSM に対する検査提供と予防介入の実践と変遷. シンポジウム 4、第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.
- 3) 高橋良介、石田敏彦、藤浦裕二、岩崎 誠、今橋真弓、金子典代: 東海地域におけるゲイ・バイセクシュアル男性を対象とした性感染症検査会の NGO による広報とその効果. 第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.
- 4) ○金子典代、太田 貴、荒木 順、岩橋恒太、石田敏彦、宮田りりい、塩野徳史、玉城祐貴: コミュニティセンター来場者におけるセンターでの情報入手や相談経験、HIV 検査行動、新しい知識の浸透. 第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.
- 5) ○岩橋恒太、金子典代、高野 操、岡 慎一、本間隆之、健山正男、玉城祐貴、市川誠一、荒木 順、木南拓也、生島 嗣、佐藤郁夫、福原寿弥、林田庸総、中山保世、小日向弘雄、今村顕史: MSM を対象とした郵送検査キット用いた HIV 検査「HIVcheck.jp」のベニューの拡大の試行. 第 33 回日本エイズ学

- 会学術集会・総会、熊本、2019.
- 6) 宮田りりい、塩野徳史、金子典代: MSM (Men who have sex with men) に包摂される女装者たちの性行動や HIV 感染症に対する意識. 第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.
- 7) Michiko Takaku, Myagmardorj Dorjgotov, Erdenetuya Gombo, Nyampurev Galsanjamts, Davaalkham Jagdagsuren, Seiichi Ichikawa, Satoshi Shiono, Noriyo Kaneko, Shinichi Oka : Studies evaluating NGOs' HIV prevention interventions targeting MSM community in Mongolia: Results of the internet surveys in FY 2013, 2014, 2017 and 2018. The 33rd Annual Meeting of the Japanese Society for AIDS Research, Kumamoto, 2019.
- 8) ○林田庸総、柏木恵莉、土屋亮人、高野 操、青木孝弘、瀧永博之、菊池 嘉、岩橋恒太、金子典代、岡 慎一: 乾燥ろ紙血を用いた HIV Ag/Ab 郵送検査の性質についての検討. 第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.
- 9) 岩橋恒太、金子典代、荒木 順、木南拓也、鈴木敦大、堅多敦子、今村顕史: MSM を対象とする、2018 年の A 型肝炎の拡大の注意喚起に関する効果評価調査. 第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.
- 10) 今村顕史、堅多敦子、岩橋恒太、荒木 順、金子典代、生島 嗣、西浦 博、齋藤涼平: MSM における A 型肝炎流行への対策と効果についての検討. 第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.
- 11) 金子典代: MSM に対する支援 何が必要か. シンポジウム 1、第 68 回日本感染症学会東日本地方会学術集会・第 66 回日本化学療法学会東日本支部総会合同学会、仙台、2019.
- 12) ○林田庸総、土屋亮人、高野 操、青木孝弘、瀧永博之、菊池 嘉、岩橋恒太、金子典代、岡 慎一: 乾燥ろ紙血を用いた HIV Ag/Ab 検査についての検討. 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会、大阪、2018.
- 13) ○本間隆之、岩橋恒太、金子典代、高久道子、荒木順子、木南拓也、阿部甚平、藤原孝大: MSM 向けクラブイベント来場者における HIV 検査未受検者の特性. 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会、大阪、2018.
- 14) 椎野禎一郎、蜂谷敦子、今橋真弓、松田昌和、岩谷靖雅、横幕能行、金子典代、羽柴知恵子、吉村和久: 国内伝播クラスタの検索プログラムの開発 2: 東海地方で若年層に急速に伝播を広げるクラスタの検出. 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会、大阪、2018.
- 15) ○荒木順子、金子典代、木南拓也、藤原孝大、阿部甚兵、岩橋恒太、高久道子、本間隆之: akta 来場者における来場経験別の来場目的、HIV 検査行動、性行動、陽性者の身近さ. 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会、大阪、2018.
- 16) 今橋真弓、金子典代、椎野禎一郎、松田昌和、蜂谷敦子、岩谷靖雅、横幕能行、羽柴知恵子: 名古屋医療センターにおける 2009 ~ 2016 年未治療初診患者の後方視的生存率検討. 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会、大阪、2018.
- 17) ○和田秀穂、塩野徳史、徳永博俊、竹内麻子、健山正男、市川誠一、金子典代: 中国四国地方におけるより感染リスクの高い MSM 層の実態把握と HIV 抗体検査受検経験に関するコミュニティアンケート調査. 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会、大阪、2018.
- 18) ○岩橋恒太、金子典代、高野操、岡慎一、本間隆之、健山正男、市川誠一、荒木順子、木南拓也、高久道子、生島嗣、佐藤郁夫、福原寿弥、林田庸総、中山保世、小日向弘雄、今村顕史: MSM を対象とする、郵送検査手法を用いた新たな HIV 検査機会としての「HIVcheck.jp」の取り組み. 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会、大阪、2018.
- 19) Takaku M, Dorjgotov M, Gombo E, Galsanjamts N, Jagdagsuren D, Ichikawa S,

- Shiono S, Kaneko N, Oka S: Studies on NGOs' HIV prevention interventions targeting MSM community in Mongolia 2017: The 32nd Annual Meeting of the Japanese Society for AIDS Research, Osaka, 2018.
- 20) Takaku Michiko, Dorjgotov Myagmardorj, Gombo Erdenetuya, Galsanjamts Nyampurev, Jagdagsuren Davaakkham, Ichikawa Seiichi, Shiono Satoshi, Kaneko Noriyo, Oka Shinichi: Studies on NGOs' HIV prevention interventions targeting MSM community in Mongolia, 第31回日本エイズ学会学術集会・総会, 東京, 2017.
- 21) 高久道子, 市川誠一, 金子典代, 岩木エリーザ: 多言語インターネット調査システムの開発とMSMを含む外国国籍者を対象とする調査, 第31回日本エイズ学会学術集会・総会, 東京, 2017.
- 22) 〇木南拓也, 本間隆之, 岩橋恒太, 荒木順子, 佐久間久弘, 大島岳, 金子典代, 市川誠一: コミュニティセンターaktaを起点とするアウトリーチ活動の効果評価, 第31回日本エイズ学会学術集会・総会, 東京, 2017.
- 23) 〇荒木順子, 金子典代, 木南拓也, 岩橋恒太, 佐久間久弘, 阿部甚平, 大島岳, 太田貴, 石田敏彦, 塩野徳史, 新山賢, 金城健, 本間隆之, 市川誠一: aktaで展開したセーフアークセックスキャンペーンとコミュニティベース調査による効果評価, 第31回日本エイズ学会学術集会・総会, 東京, 2017.
3. 学会発表 (国外)
- 1) 〇Kota Iwahashi, Noriyo Kaneko, Misao Takano, Shinichi Oka, Takayuki Honma, Masao Tateyama, Seiichi Ichikawa, Jun Araki, Takuya Kinami, Yuzuru Ikushima, Ikuo Sato, Toshiya Fukuhara, Tsunefusa Hayashida, Nakayama Yasuyo, Hiroo Obinata, Akifumi Imamura: Dry Blood Spot-Based HIV Testing 'HIVcheck.jp' is a New Testing Opportunity for Men who have Sex with Men in Tokyo, Japan. FAST-TRACK CITIES 2019, LONDON, September, 2019.
- 2) Kinami T, Fujiwara K, Suzuki A, Abe J, Araki J, Iwahashi K, Kaneko N, Honma T: The Outreach Programme "Delivery Health Project" as the Best Practice of HIV Prevention for MSM in Tokyo Japan. FAST-TRACK CITIES 2019, LONDON, September, 2019.
- 3) Ryohei Terao, Noriyo Kaneko, Michiyo Higuchi: Survey of school nurses' experiences providing counseling on sexual orientation to junior and senior high school students in Japan, The 49th Asia-Pacific Academic Consortium for Public Health Conference, Korea, 2017.
- 研究分担者
岩橋恒太
1. 論文発表
- 1) 〇金子典代, 塩野徳史, 本間隆之, 岩橋恒太, 健山正男, 市川誠一: 地方都市在住のMSM (Men who have sex with men) における調査時点までと過去1年のHIV検査経験と関連要因. 日本エイズ学会誌, 2019, 21(1), 34-44.
- 2) 〇Takano M, Iwahashi K, Satoh I, Araki J, Kinami T, Ikushima Y, Fukuhara T, Obinata H, Nakayama Y, Kikuchi Y, Oka S; HIV Check Study Group: Assessment of HIV prevalence among MSM in Tokyo using self-collected dried blood spots delivered through the postal service. BMC Infect Dis., 2018, 18(1), 627.
2. 学会発表 (国内)
- 1) 〇岩橋恒太: NGOの視点からみた新しい確認検査法への期待 ~コミュニティセン

- ターaktaでのHIVcheck.jpの経験から. シンポジウム 2、第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.
- 2) 本間隆之、岩橋恒太、生島 嗣、貞升健志、長島真美、市川誠一、今村顕史：MSM に向けた HIV 検査相談会「快速あんしん検査上野駅」3 年間の取り組み. 第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.
- 3) ○金子典代、太田 貴、荒木 順、岩橋恒太、石田敏彦、宮田りりい、塩野徳史、玉城祐貴：コミュニティセンター来場者におけるセンターでの情報入手や相談経験、HIV 検査行動、新しい知識の浸透. 第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.
- 4) ○岩橋恒太、金子典代、高野 操、岡 慎一、本間隆之、健山正男、玉城祐貴、市川誠一、荒木 順、木南拓也、生島 嗣、佐藤郁夫、福原寿弥、林田庸総、中山保世、小日向弘雄、今村顕史：MSM を対象とした郵送検査キット用いた HIV 検査「HIVcheck.jp」のベニューの拡大の試行. 第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.
- 5) ○林田庸総、柏木恵莉、土屋亮人、高野 操、青木孝弘、瀧永博之、菊池 嘉、岩橋恒太、金子典代、岡 慎一：乾燥ろ紙血を用いた HIV Ag/Ab 郵送検査の性質についての検討. 第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.
- 6) 佐野貴子、近藤真規子、土屋菜歩、須藤弘二、星野慎二、井戸田一朗、清水茂徳、生島 嗣、岩橋恒太、今井光信、加藤眞吾、市川誠一、白阪琢磨、今村顕史：ウェブサイト「HIV 検査・相談マップ」を用いた HIV 検査相談情報の提供とサイト利用状況の解析. 第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.
- 7) 岩橋恒太、金子典代、荒木 順、木南拓也、鈴木敦大、堅多敦子、今村顕史：MSM を対象とする、2018 年の A 型肝炎の拡大の注意喚起に関する効果評価調査. 第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.
- 8) 今村顕史、堅多敦子、岩橋恒太、荒木 順、金子典代、生島 嗣、西浦 博、齋藤涼平：MSM における A 型肝炎流行への対策と効果についての検討. 第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.
- 9) ○林田庸総、土屋亮人、高野 操、青木孝弘、瀧永博之、菊池 嘉、岩橋恒太、金子典代、岡慎一：乾燥ろ紙血を用いた HIV Ag/Ab 検査についての検討. 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会、大阪、2018.
- 10) ○本間隆之、岩橋恒太、金子典代、高久道子、荒木順子、木南拓也、阿部甚平、藤原孝大：MSM 向けクラブイベント来場者における HIV 検査未受検者の特性. 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会、大阪、2018.
- 11) ○荒木順子、金子典代、木南拓也、藤原孝大、阿部甚兵、岩橋恒太、高久道子、本間隆之：akta 来場者における来場経験別の来場目的、HIV 検査行動、性行動、陽性者の身近さ. 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会、大阪、2018.
- 12) ○岩橋恒太、金子典代、高野操、岡慎一、本間隆之、健山正男、市川誠一、荒木順子、木南拓也、高久道子、生島嗣、佐藤郁夫、福原寿弥、林田庸総、中山保世、小日向弘雄、今村顕史：MSM を対象とする、郵送検査手法を用いた新たな HIV 検査機会としての「HIVcheck.jp」の取り組み. 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会、大阪、2018.
- 13) 木南拓也、本間隆之、岩橋恒太、今村顕史：コミュニティセンター akta を基点とするアウトリーチ活動の効果評価. 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会、大阪、2018.
- 14) 本間隆之、岩橋恒太、貞升健志、長島真美、生島 嗣、堅多敦子、市川誠一、今村顕史 3 HIV 検査相談会「快速あんしん検査上野駅 2017」の実施. 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会、大阪、2018.
- 15) 今村顕史、堅多敦子、岩橋恒太、生島 嗣：A 型肝炎の流行におけるハイリスク層への効果的な啓発方法の検討. 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会、大阪、2018.

- ズ学会学術集会・総会,大阪, 2018.
- 16) ○木南拓也, 本間隆之, 岩橋恒太, 荒木順子, 佐久間久弘, 大島 岳, 金子典代, 市川誠一 コミュニティセンター akta を基点とするアウトリーチ活動の効果評価 第 31 回日本エイズ学会学術集会・総会 東京, 2017.
- 17) ○荒木順子, 金子典代, 木南拓也, 岩橋恒太, 佐久間久弘, 阿部甚兵, 大島 岳, 太田貴, 石田敏彦, 塩野徳史, 新山 賢, 金城 健, 本間隆之, 市川誠一 akta で展開したセーフターセックスキャンペーンとコミュニティベース調査による効果評価 第 31 回日本エイズ学会学術集会・総会 東京, 2017.
- 18) 岩橋恒太, 生島 嗣, 藤田彩子, 市川誠一, 白阪琢磨 MSM を対象とした献血に関する情報伝達方法および意識調査 第 31 回日本エイズ学会学術集会・総会 東京, 2017.
- 19) ○本間隆之, 木南拓也, 岩橋恒太, 柴田恵, 荒木順子, 佐久間久弘, 阿部甚兵, 大島岳, 市川誠一 Community-Based Organization によるアウトリーチ活動のプログラム評価ーロジックモデルを用いたプロセス評価ー 第 31 回日本エイズ学会学術集会・総会 東京, 2017.
- 20) 岩橋恒太, 本間隆之, 堅多敦子, 貞升健志, 長島真美, 清古愛弓, 生島 嗣, 岳中美江, 市川誠一, 今村顕史 東京東部地域における MSM 向け HIV 検査・相談会「快速あんしん検査上野駅」の啓発の構成 ワークショップ 3 検査・相談体制 第 31 回日本エイズ学会学術集会・総会 東京, 2017.
- 21) 本間隆之, 岩橋恒太, 堅多敦子, 貞升健志, 長島真美, 清古愛弓, 生島 嗣, 市川誠一, 今村顕史 HIV 検査相談会「快速あんしん検査上野駅」の実施 ワークショップ 3 検査・相談体制 第 31 回日本エイズ学会学術集会・総会 東京, 2017.
- 22) 高野 操, 岩橋恒太, 荒木順子, 木南拓也, 佐久間久弘, 生島 嗣, 佐藤郁夫, 福原寿弥,

中山保世, 小日向弘雄, 友成喜代美, 土屋亮人, 杉野祐子, 小形幹子, 上村 悠, 柳川泰昭, 水島大輔, 青木孝弘, 市川誠一, 菊池 嘉 MSM を対象とした自己穿刺血による HIV 検査ー HIV Check 受検者の有病率 ワークショップ 3 検査・相談体制 第 31 回日本エイズ学会学術集会・総会 東京, 2017.

3. 学会発表 (国外)

- 1) ○Kota Iwahashi, Noriyo Kaneko, Misao Takano, Shinichi Oka, Takayuki Honma, Masao Tateyama, Seiichi Ichikawa, Jun Araki, Takuya Kinami, Yuzuru Ikushima, Ikuo Sato, Toshiya Fukuhara, Tsunefusa Hayashida, Nakayama Yasuyo, Hiroo Obinata, Akifumi Imamura: Dry Blood Spot-Based HIV Testing ‘HIVcheck.jp’ is a New Testing Opportunity for Men who have Sex with Men in Tokyo, Japan. FAST-TRACK CITIES 2019, LONDON, September, 2019.
- 2) Kinami T, Fujiwara K, Suzuki A, Abe J, Araki J, Iwahashi K, Kaneko N, Honma T: The Outreach Programme “Delivery Health Project” as the Best Practice of HIV Prevention for MSM in Tokyo Japan. FAST-TRACK CITIES 2019, LONDON, September, 2019.

健山正男

1. 論文発表

- 1) ○金子典代, 塩野徳史, 本間隆之, 岩橋恒太, 健山正男, 市川誠一: 地方都市在住の MSM (Men who have sex with men) における調査時点までと過去 1 年の HIV 検査経験と関連要因. 日本エイズ学会誌, 2019, 21(1), 34-44.
- 2) Kami-Onaga K, Tateyama M, Kinjo T, Parrott G, Tominaga D, Takahashi-Nakazato A, et al. Comparison of two

screening tests for HIV-Associated Neurocognitive Disorder suspected Japanese patients with respect to cART usage. PloS one. 2018;13(6)

- 3) Ogawa S, Hachiya A, Hosaka M, Matsuda M, Ode H, Shigemi U, Okazaki R, Sadamasu K, Nagashima M, Toyokawa T, Tateyama M, Tanaka Y, Sugiura W, Yokomaku Y, Iwatani Y. A Novel Drug-Resistant HIV-1 Circulating Recombinant Form CRF76_01B Identified by Near Full-Length Genome Analysis. AIDS Res Hum Retroviruses, 32, 3, 284-289, 2016
- 4) Arae H, Tateyama M, Nakamura H, Tasato D, Kami K, Miyagi K, Maeda S, Uehara H, Moromi M, Nakamura K, Fujita J. Evaluation of the Lipid Concentrations after Switching from Antiretroviral Drug Tenofovir Disoproxil Fumarate/Emtricitabine to Abacavir Sulfate/Lamivudine in Virologically-suppressed Human Immunodeficiency Virus-infected Patients. Intern Med 55 23 3435-3440 20162.

2. 学会発表 (国内)

- 1) 健山正男：トキゾプラズマ症の現況と課題。シンポジウム 5、第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.
- 2) 上原 仁、諸見牧子、与那覇房子、前田サオリ、宮城京子、石郷岡美穂、大城市子、辺士名優美子、仲村秀太、健山正男、藤田次郎、中村克徳：ラルテグラビル 1200 mg とプロトンポンプ阻害薬との併用による有害事象が疑われた一例。第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.
- 3) ○岩橋恒太、金子典代、高野 操、岡 慎一、本間隆之、健山正男、玉城祐貴、市川誠一、荒木 順、木南拓也、生島 嗣、佐藤郁夫、福原寿弥、林田庸総、中山保世、小日向弘雄、今村顕史：MSM を対象とした郵送検査キット用いた HIV 検査「HIVcheck.jp」のベニューの拡大の試行。第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.
- 4) 前田サオリ、宮城京子、仲村秀太、名嘉山賀子、健山正男、上原 仁、石郷岡美穂、大嶺千代美、藤田次郎：HIV 感染および肺結核が判明した外国人母子の療養支援。第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.
- 5) 蜂谷敦子、佐藤かおり、豊嶋崇徳、伊藤俊広、林田庸総、岡 慎一、湯永博之、古賀道子、長島真美、貞升健志、近藤真規子、椎野禎一郎、須藤弘二、加藤真吾、谷口俊文、猪狩英俊、寒川 整、中島秀明、吉野友祐、堀場昌秀、太田康男、茂呂 寛、渡邊珠代、松田昌和、重見 麗、岡崎玲子、岩谷靖雅、横幕能行、渡邊 大、小島洋子、森 治代、藤井輝久、高田清式、中村麻子、南 留美、山本政弘、松下修三、健山正男、藤田次郎、杉浦 互、吉村和久、菊池 正：国内新規 HIV/AIDS 診断症例における薬剤耐性 HIV-1 の動向。第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.
- 6) 饒平名聖、石原美紀、島袋末美、渡嘉敷良乃、名護珠美、上原 仁、宮城京子、前田サオリ、仲村秀太、健山正男、前田士郎：当院における HIV-1 インテグラーゼ薬剤耐性検査の検出状況報告。第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.
- 7) 仲村秀太、健山正男、名嘉山賀子、上原 仁、前田サオリ、宮城京子、藤田次郎：一次結核を発症した生後 7 ヶ月の HIV 陽性乳児において TDM によるラルテグラビル投与量設定が奏功した 1 例。第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.
- 8) ○和田秀穂、塩野徳史、徳永博俊、竹内麻子、健山正男、市川誠一、金子典代：中国四国地方におけるより感染リスクの高い MSM 層の実態把握と HIV 抗体検査受検経験に関するコミュニティアンケート調査、第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2018.

- ズ学会学術集会・総会,大阪,2018.
- 9) ○岩橋恒太,金子典代,高野操,岡慎一,本間隆之,健山正男,市川誠一,荒木順子,木南拓也,高久道子,生島嗣,佐藤郁夫,福原寿弥,林田庸総,中山保世,小日向弘雄,今村顕史: MSM を対象とする、郵送検査手法を用いた新たな HIV 検査機会としての「HIVcheck.jp」の取り組み. 第32回日本エイズ学会学術集会・総会,大阪,2018.
- 10) 宮城京子,豊里竹彦,前田サオリ,健山正男,大嶺千代美,藤田次郎: 沖縄県内訪問看護師の HIV 感染患者の受け入れ意識に関連する要因の検討. 第32回日本エイズ学会学術集会・総会,大阪,2018.
- 11) 上薫,健山正男,金城武士,Parrott Gretchen,富永大介,高橋愛,仲村秀太,宮城京子,前田サオリ,藤田次郎: 日本人における、2つの HIV 関連認知機能障害スクリーニング検査の cART 非投与群と投与群の比較. 第32回日本エイズ学会学術集会・総会,大阪,2018.
- 12) 健山正男ら: 国内新規 HIV/AIDS 診断症例における薬剤耐性 HIV-1 の動向. 第32回日本エイズ学会学術集会・総会,大阪,2018.
- 13) 健山正男,上薫,仲村秀太,宮城一也,金城武士,鍋谷大二郎,原永修作,藤田次郎, HIV 関連神経認知障害の病態と診断,第87回日本感染症学会西日本地方会学術集会,5 シンポジウム,長崎市,2017.
- 14) 兼久 梢,健山正男,喜友名朋,新里彰,新垣若子,鍋谷大二郎,原永修作,屋良さとみ,藤田次郎 cART 未導入、HIV 感染血友病患者における透析導入の一例,第31回日本エイズ学会学術集会・総会. 東京,2017.
- 15) ○健山正男, HIV 陽性患者アンケート解析からみた HIV 検査における課題,第31回日本エイズ学会学術集会・総会,5. シンポジウム,東京2017.
- 16) 椎野禎一郎,健山正男,石原美紀,南留美,蜂谷敦子,横幕能行,吉田 繁,近藤真規子,貞升健志,古賀道子,森 治代,杉浦 互,吉村和久,国内伝播クラスタの検索プログラムの開発: 未知の塩基配列の所属する伝播クラスタの解析力の検証,第31回日本エイズ学会学術集会・総会,ワークショップ,東京,2017.
- 17) 宮城京子,豊里竹彦,前田サオリ,當山国江,石郷岡美穂,友利晃子,諸見牧子,上原 仁,大城市子,辺土名優美子,上 薫,石原美紀,島袋奈津紀,健山正男,大嶺千代美,藤田次郎,沖縄県内訪問看護ステーションの職員が抱く HIV/AIDS 患者の受け入れに関する現状調査—第一報—,第31回日本エイズ学会学術集会・総会,東京,2017.
- 18) 前田サオリ,宮城京子,健山正男,諸見牧子,上原 仁,石郷岡美穂,大城市子,辺土名優美子,本永久美子,大嶺千代美,藤田次郎,緊急入院・緊急透析となった患者の意思決定支援,第31回日本エイズ学会学術集会・総会,東京2017.
- 19) 岡崎玲子,蜂谷敦子,湯永博之,渡邊 大,長島真美,貞升健志,近藤真規子,南留美,吉田 繁,小島洋子,森 治代,内田和江,椎野禎一郎,加藤真吾,豊嶋崇徳,佐々木 悟,伊藤俊広,猪狩英俊,寒川 整,石ヶ坪良明,太田康男,山元泰之,古賀道子,林田庸総,岡慎一,松田昌和,重見 麗,濱野章子,横幕能行,渡邊珠代,藤井輝久,高田清式,山本政弘,松下修三,藤田次郎,健山正男,岩谷靖雅,吉村和久,国内新規 HIV/AIDS 診断症例における薬剤耐性 HIV-1 の動向,第31回日本エイズ学会学術集会・総会,東京,2017.

3. 学会発表 (国外)

- 1) ○Kota Iwahashi, Noriyo Kaneko, Misao Takano, Shinichi Oka, Takayuki Honma, Masao Tateyama, Seiichi Ichikawa, Jun Araki, Takuya Kinami, Yuzuru Ikushima, Ikuo Sato, Toshiya Fukuhara, Tsunefusa Hayashida, Nakayama Yasuyo, Hiroo

Obinata, Akifumi Imamura: Dry Blood Spot-Based HIV Testing 'HIVcheck.jp' is a New Testing Opportunity for Men who have Sex with Men in Tokyo, Japan. FAST-TRACK CITIES 2019, LONDON, September, 2019.

和田秀穂

1. 論文発表

- 1) 和田秀穂. :HIV 感染症の過去・現在・未来. 臨床病理 67 (補冊) : 5, 2019.
- 2) 安井 晴之進, 橋本 誠也, 林 茂樹, 横井 桃子, 松本 誠司, 廣瀬 匡, 竹内 麻子, 徳永 博俊, 近藤 敏範, 近藤 英生, 和田 秀穂. :R-MPV 療法が奏効した HIV 関連 PCNSL の 1 例. 臨床血液 60(5) : 515, 2019.
- 3) Nakagiri I, Tasaka T, Okai M, Nakai F, Bunya R, Nagai S, Yoshida T, Tokunaga H, Kondo E, Wada H. : Screening for human immunodeficiency virus using a newly developed fourth generation lateral flow immunochromatography assay. J. Virol. Methods. 274 :113746, 2019.
- 4) 飯塚暁子, 藤原千尋, 村上由佳, 門田悦子, 松井綾香, 野村直幸, 木梨貴博, 齊藤誠司, 坂田達朗, 和田秀穂 : 歯科衛生士学生への HIV 診療チームによる HIV/AIDS 啓発教育の効果の検討. 日本エイズ学会誌 2018, 20(3) : 216-221.

2. 学会発表 (国内)

- 1) ○和田秀穂 : 地方における性病クリニック検査の事業化と今後の展望. シンポジウム 4, 第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.
- 2) 野村直幸, 松井綾香, 飯塚暁子, 藤原千尋, 門田悦子, 木梨貴博, 村上由佳, 齊藤誠司, 坂田達朗, 和田秀穂 : HIV 感染症治療における院外処方への移行の推進に向けた薬剤師の取り組みと課題. 第 33 回日本エイズ学会

学術集会・総会、熊本、2019.

- 3) 松井綾香, 野村直幸, 村上由佳, 藤原千尋, 飯塚暁子, 木梨貴博, 門田悦子, 齊藤誠司, 坂田達朗, 和田秀穂 : HIV 感染症治療における院外処方移行促進のための病院 - 保険薬局間での情報共有に対する取り組み. 第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.
- 4) 近藤陽介, 安井晴之進, 福田寛文, 竹内麻子, 徳永博俊, 近藤英生, 和田秀穂 : 大量メトトレキサート併用化学療法が奏功した HIV 関連リンパ腫の 2 例. 第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.
- 5) 西田拓洋, 中尾 綾, 中村美保, 川田通子, 海面 敬, 臼井麻子, 池谷千恵, 吉川由香, 武内世生, 窪田良次, 尾崎修治, 佐藤 穰, 千酌浩樹, 和田秀穂, 山下 光, 山之内純, 高田清式 : 中国四国地方における HIV 関連神経認知障害に関する研究 - 体制構築 -. 第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.
- 6) 飯塚暁子, 藤原千尋, 村上由佳, 門田悦子, 三笠かおる, 大島瑞穂, 松井綾香, 野村直幸, 木梨貴博, 齊藤誠司, 坂田達朗, 和田秀穂 : 当院の HIV 感染症通院患者における精神科受診の現状と課題. 第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.
- 7) ○和田秀穂, 塩野徳史, 徳永博俊, 竹内麻子, 健山正男, 市川誠一, 金子典代 : 中国四国地方におけるより感染リスクの高い MSM 層の実態把握と HIV 抗体検査受検経験に関するコミュニティアンケート調査, 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会、大阪、2018.
- 8) 野村直幸, 松井綾香, 飯塚暁子, 藤原千尋, 門田悦子, 木梨貴博, 村上由佳, 齊藤誠司, 坂田達朗, 和田秀穂 : 9 薬剤師介入による当院通院中の HIV 感染者における梅毒・B 型肝炎・C 型肝炎の罹患動向の把握と薬剤の適正使用に関する取り組み. 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会、大阪、2018.
- 9) 松井綾香, 野村直幸, 村上由佳, 藤原千尋, 飯塚暁子, 木梨貴博, 門田悦子, 齊藤誠司, 坂

- 田達朗, 和田秀穂: 当院における TAF 変更例の腎機能、血中脂質への影響について, 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, 2018.
- 10) 竹内麻子, 橋本誠也, 徳永博敏, 林 成樹, 内田圭一, 松本誠司, 安井晴之進, 横井桃子, 廣瀬匡, 清水里紗, 佐野史典, 近藤敏範, 松橋佳子, 中桐逸博, 近藤英生, 和田秀穂: Kaposi 肉腫に合併した難治性温式自己免疫性溶血性貧血の治療に苦慮した AIDS 症例, 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, 2018.
- 11) 飯塚暁子, 藤原千尋, 村上由佳, 門田悦子, 三笠かおる, 大島瑞穂, 松井綾香, 野村直幸, 木梨貴博, 齊藤誠司, 坂田達朗, 和田秀穂: HIV 感染者においてかかりつけ医を持つことに対して障壁となっている心理・社会的要因の調査と検討. 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, 2018.
- 12) ○和田秀穂, 岡山県でのクリニック検査の事業化の取り組み シンポジウム 5 地方都市における HIV 検査アクセスの向上, 第 31 回日本エイズ学会学術集会・総会, 東京, 2017.
- 13) ○和田秀穂, 臨床医から見た HIV 検査の普及に向けた検査方法選択と今後の課題 ランチョンセミナー6 HIV 検査の現状と展望, 第 31 回日本エイズ学会学術集会, 東京, 2017.
- 14) 松井綾香, 野村直幸, 坂田達朗, 齊藤誠司, 和田秀穂, 板野亨, 相良義弘 当院における HIV 感染者の合併症と併用薬の使用状況からかかりつけ医の必要性を考える, 第 31 回日本エイズ学会学術集会, 東京, 2017.
- 15) 飯塚暁子, 藤原千尋, 村上由佳, 門田悦子, 松井綾香, 野村直幸, 木梨貴博, 齊藤誠司, 坂田達朗, 和田秀穂 歯科衛生士学生への HIV 診療チームによる HIV/AIDS 啓発教育の効果-HIV/AIDS に関する講義の聴講前後の調査を通じて-, 第 31 回日本エイズ学会学術集会, 東京, 2017.
- 16) 安井晴之進, 徳永博俊, 竹内麻子, 廣瀬匡, 山内佑, 西村広健, 杉原尚, 和田秀穂 長期間未治療の HIV 感染者にみられた二次性膜性増殖性糸球体腎炎の 1 例, 第 31 回日本エイズ学会学術集会, 東京, 2017.
- 17) 村上由佳, 藤原千尋, 木梨貴博, 飯塚暁子, 野村直幸, 松井綾香, 齊藤誠司, 坂田達朗, 和田秀穂 福山医療センターにおける HIV 感染者の歯科受診状況と歯科未受診患者への支援, 第 31 回日本エイズ学会学術集会, 東京, 2017.

塩野徳史

1. 論文発表

- 1) ○金子典代, 塩野徳史, 本間隆之, 岩橋恒太, 健山正男, 市川誠一: 地方都市在住の MSM (Men who have sex with men) における調査時点までと過去 1 年の HIV 検査経験と関連要因. 日本エイズ学会誌, 2019, 21(1), 34-44.
- 2) ○塩野徳史, 市川誠一, 金子典代, 佐々木由理: 都市部保健所における HIV 抗体検査受検者の特性. 厚生学の指標, 2018, 65(5) 35-42.

2. 学会発表 (国内)

- 1) 塩野徳史: 長期療養時代の医療・行政・コミュニティの協働態勢の構築. 共催シンポジウム 1、第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.
- 2) ○金子典代、太田 貴、荒木 順、岩橋恒太、石田敏彦、宮田りりい、塩野徳史、玉城祐貴: コミュニティセンター来場者におけるセンターでの情報入手や相談経験、HIV 検査行動、新しい知識の浸透. 第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.
- 3) 宮田りりい、塩野徳史、金子典代: MSM (Men who have sex with men) に包摂される女装者たちの性行動や HIV 感染症に対する意識. 第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊

- 本、2019.
- 4) Michiko Takaku, Myagmardorj Dorjgotov, Erdenetuya Gombo, Nyampurev Galsanjamts, Davaalkham Jagdagsuren, Seiichi Ichikawa, Satoshi Shiono, Noriyo Kaneko, Shinichi Oka : Studies evaluating NGOs' HIV prevention interventions targeting MSM community in Mongolia: Results of the internet surveys in FY 2013, 2014, 2017 and 2018. The 33rd Annual Meeting of the Japanese Society for AIDS Research, Kumamoto, 2019.
 - 5) ○塩野徳史 : MSM におけるセクシュアルヘルス (HIV 検査行動、新しい知識) に関する現状. 第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.
 - 6) 戸ヶ里泰典、井上洋士、高久陽介、大島 岳、阿部桜子、細川陸也、塩野徳史、米倉佑貴、片倉直子、山内麻江、河合 薫、若林チヒロ、大木幸子 : 日本人 HIV 陽性者におけるストレス関連成長の実態とその特徴. 第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.
 - 7) 宮階真紀、塩野徳史、要友紀子、宮田りりい、松下修三 : セックスワーカーにおけるセクシュアルヘルスに関する現状. 第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.
 - 8) ○和田秀穂、塩野徳史、徳永博俊、竹内麻子、健山正男、市川誠一、金子典代 : 中国四国地方におけるより感染リスクの高い MSM 層の実態把握と HIV 抗体検査受検経験に関するコミュニティアンケート調査, 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会、大阪、2018.
 - 9) Takaku M, Dorjgotov M, Gombo E, Galsanjamts N, Jagdagsuren D, Ichikawa S, Shiono S, Kaneko N, Oka S: Studies on NGOs' HIV prevention interventions targeting MSM community in Mongolia 2017: The 32nd Annual Meeting of the Japanese Society for AIDS Research, Osaka, 2018.
 - 10) ○塩野徳史 : 社会分野における予防指針の課題. 日本エイズ学会シンポジウム, 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, 2018.
 - 11) 細川陸也, 井上洋士, 戸ヶ里泰典, 高久陽介, 若林チヒロ, 阿部桜子, 塩野徳史, 米倉佑貴, 片倉直子, 山内麻江, 大島岳, 大木幸子 : HIV 陽性者のかかりつけ医への通院状況. 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, 2018.
 - 12) 井上洋士, 戸ヶ里泰典, 塩野徳史ら : HIV 陽性者での Treatment as Prevention (TasP) の認知状況と性生活・メンタルヘルスとの関連. 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, 2018.
 - 13) 戸ヶ里泰典, 井上洋士, 高久陽介, 米倉佑貴, 大島岳, 阿部桜子, 塩野徳史, 細川陸也, 山内麻江, 片倉直子, 河合薫, 若林チヒロ, 大木幸子 : HIV 陽性者における依存性薬物使用の変化とストレス関連成長・ストレス対処力との関連3 年間の縦断データ分析より. 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, 2018.
 - 14) 大島岳, 井上洋士, 戸ヶ里泰典, 高久陽介, 米倉佑貴, 阿部桜子, 塩野徳史, 細川陸也, 山内麻江, 片倉直子, 河合 薫, 若林チヒロ, 大木幸子, 渡邊淳子, 梅沢寛子 : 板垣貴志 : 差別偏見を感じている HIV 陽性者当事者の対処戦略に関する自由記載のテキストマイニング分析. 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, 2018.
 - 15) 細川陸也, 井上洋士, 戸ヶ里泰典, 高久陽介, 若林チヒロ, 阿部桜子, 塩野徳史, 米倉佑貴, 片倉直子, 山内麻江, 大島 岳, 大木幸子 : HIV 陽性者の子どもを持つことの現状. 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, 2018.
 - 16) 阿部桜子, 井上洋士, 戸ヶ里泰典, 高久陽介, 若林チヒロ, 細川陸也, 塩野徳史, 片倉直子, 山内麻江, 大島 岳, 大木幸子, 米倉佑貴, 河合薫, 渡邊淳子, 梅沢寛子 : HIV に関連したスティグマと感染後年数との関連の検討. 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪,

- 2018.
- 17) 塩野徳史: U=U をめぐるメッセージと予防啓発. 日本エイズ学会シンポジウムシンポジウム 9. 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, 2018.
- 18) 塩野徳史 ゲイコミュニティにおける HIV 抗体検査—『これまで』と『これから』シンポジウム 3 HIV 将来予測と流行阻止 第 31 回日本エイズ学会学術集会・総会 東京, 2017.
- 19) 塩野徳史 HIV 検査の受検阻害要因としてのスティグマ シンポジウム 4 スティグマの払拭は誰が担うのか 第 31 回日本エイズ学会学術集会・総会 東京, 2017.
- 20) 塩野徳史, 後藤大輔, 町 登志雄, 宮田りりい, 大畑泰次郎, 伴仲昭彦, 鬼塚哲郎, 市川誠一 商業施設を利用しはじめる若年層 MSM を対象とした予防啓発介入の開発と効果評価 第 31 回日本エイズ学会学術集会・総会 東京, 2017.
- 21) ○荒木順子, 金子典代, 木南拓也, 岩橋恒太, 佐久間久弘, 阿部甚兵, 大島 岳, 太田貴, 石田敏彦, 塩野徳史, 新山 賢, 金城 健, 本間隆之, 市川誠一 akta で展開したセーフターセックスキャンペーンとコミュニティベースド調査による効果評価 第 31 回日本エイズ学会学術集会・総会 東京, 2017.
- 22) 宮田りりい, 塩野徳史, 後藤大輔, 町 登志雄, 大畑泰次郎, 市川誠一 MSM における性交相手との出会いの場所と方法—年齢層による差異について— 第 31 回日本エイズ学会学術集会・総会 東京, 2017.
- 23) 塩野徳史, 後藤大輔, 町 登志雄, 宮田りりい MSM における検査行動に関する尺度開発とコミュニティセンターdista 利用者の変化 第 31 回日本エイズ学会学術集会・総会 東京, 2017.
- 24) 後藤大輔, 中村理恵, 宮田りりい, 塩野徳史 若年層向けの行政と連携した予防啓発方法の試み 第 31 回日本エイズ学会学術集会・総会 東京, 2017.
- 25) 川畑拓也, 小島洋子, 森 治代, 駒野 淳, 岩佐 厚, 亀岡 博, 菅野展史, 近藤雅彦, 杉本賢治, 高田昌彦, 田端運久, 中村幸生, 古林敬一, 清田敦彦, 伏谷加奈子, 塩野徳史, 後藤大輔, 町 登志雄, 柴田敏之, 木下 優 大阪府における MSM 向け HIV/STI 検査相談事業・平成 28 年度実績報告 第 31 回日本エイズ学会学術集会・総会 東京, 2017.
- 26) Takaku Michiko, Dorjgotov Myagmardorj, Gombo Erdenetuya, Galsanjamts Nyampurev, Jagdagsuren Davaalkham, Ichikawa Seiichi, Shiono Satoshi, Kaneko Noriyo, Oka Shinichi Studies on NGOs' HIV prevention interventions targeting MSM community in Mongolia The 31st Annual Meeting of the Japanese Society for AIDS Research, Tokyo, 2017.
- 27) 櫻井理恵, 真木景子, 浦林純江, 青木理恵, 浅井千絵, 松本健二, 小向 潤, 植田英也, 半羽宏之, 松村直樹, 久保徹朗, 安井典子, 塩野徳史, 市川誠一 保健福祉センターにおける HIV 抗原抗体検査受検者アンケートから見た MSM 対策の評価 ワークショップ 3 検査・相談体制 第 31 回日本エイズ学会学術集会・総会 東京, 2017.

G. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし